

「森っち」に感謝状

市から感謝状を贈呈

第59回全国植樹祭のマスコットとして活躍した「森っち(もりっち)」への感謝状贈呈式が12月17日、市役所で行われ、岸部市長から森っちに感謝状が贈られました。

森っちに感謝状を贈呈し、岸部市長は「おかげさまで、全国植樹祭が無事終わり感謝します。植樹祭当日の活躍だけではなく、植樹祭終了後も様々な活躍をいただきありがとうございます。今後は、木材を作品とし、永久に命を与えるチェンソーアートなどで木の魅力を伝え、森を大切にしていきます」などと述べました。活躍が認められた森っちは、県の水と緑のマスコットとして、県の職員に採用されることになりました。



▲全国植樹祭を通じて、北秋田市を全国にPRした「森っち」に感謝状を贈呈

県芸術文化章受章を報告

俳句部門では県北から二人目、五代儀幹雄さん

秋田県芸術文化章(俳句部門)を受章した五代儀幹雄さん(76歳・伊勢町)が、12月22日、市役所を訪れ、岸部市長に受章を報告しました。五代儀さんは、10代から創作活動を始め、句歴は約50年。これまで多くの大会で入賞歴を重ねています。

報告では、「俳句部門での県北地区からの受章者はこれまで能代市から一人が出たのみで、北緯40度以北は俳句の不毛の地といわれていた。ようやく陽があたったよううれし」と、喜びもひとしおの様子。

岸部市長は、「地道な創作活動が市の文化を創る大きな力になる。経験を次の世代に伝える後進を育ててほしい」と受章を称えました。



▲岸部市長に秋田県芸術文化章(俳句部門)の受章を報告する五代儀幹雄さん

営業中の安全と無事故を祈願

森吉山阿仁スキー場安全祈願祭

森吉山阿仁スキー場の安全祈願祭が12月10日、同スキー場で行われ、12日のオープンに前シーズン中の無事故と利用客増を祈願しました。

安全祈願祭は、関係者ら40人が出席し、山ろく駅舎で神事を行い、期間中の安全と、森吉山を中心とする観光振興の拠点となる同スキー場に多くの利用客が訪れるよう祈願しました。その後、救助訓練も行われ、ゴンドラが故障で停止し乗客が閉じ込められたという想定で、救助ロープを取付け、ゴンドラに登った職員が乗客を地上に降ろすまでの手順を本番さながら行い、有事に備えていました。スキー場の営業は3月29日まで。



▲本番さながらの救助訓練も行われた、森吉山阿仁スキー場安全祈願祭

身近なところでナイタースキー

米内沢スキー場開き

米内沢スキー場開きが12月22日に行われ、関係者らが、今シーズンのオープンを祝いました。

併設するロッジで行われた神事には16名が参加し、関係者が玉ぐしをささげてシーズン中の安全を祈願し、ゲレンデでテープカットを行いました。

また雪不足により滑走はできませんが、今シーズンは1月20日から営業の予定です。今後の降雪によっては営業開始が早くなることもあります。リフトの営業もナイターも例年どおり行われます。身近なところで、家族でスキーを楽しんでみてはいかがでしょうか。



▲テープカットで今シーズンのスキー場開きを祝いました。

年末年始の事件事故を未然防止

年末年始特別警戒活動に伴う出動式

年末年始特別警戒活動に伴う出動式が12月10日、北秋田警察署前で行われ、防犯活動で地域の安心安全を守ることを誓いました。

参加したのは市防犯協会鷹巣地区、市防犯指導隊、鷹巣地区少年保護育成委員会、あけぼの町子どもと高齢者の安全を守る会、西つ子を守る隊など市民ボランティア団体の約80人。参加者を代表して西つ子を守る隊の武藤慶信会長が、「地域の安全安心を守るため、警察と協力し、青色回転灯を活用しながら、地域の防犯活動を展開します」と誓いました。

出動式終了後、北秋田署のパトカーと青色回転灯をつけた車両が管内のパトロールや子どもの見守り活動などに向かいました。



▲地域の安全安心を守ることを誓った「年末年始特別警戒活動出動式」

比内地鶏ときりたんぽふるさとの味を

合川ふるさと便第2便発送

合川ふるさと会によるふるさと便の第2回目の発送が12月5日、合川農村環境改善センターで行われ、首都圏や大阪を中心に北海道から九州までの全国各地のふるさと会員125人に向け、今年度最後の便となる特別セットのきりたんぽセットを発送しました。

ふるさと会では、今年からふるさと便を合川生活研究グループ合川直売所の花野果に委託しており、花野果では、合川産の地物を中心に新米あきたこまちのきりたんぽやせり、ねぎ、ごぼうなどの素材を取りそろえました。また、会員が作った田舎漬、ごま餅、栗の渋皮煮、鯖ずしなども用意し、特別セットとしてふるさとの味を発送しました。



▲比内地鶏をはじめ、手作りきりたんぽなどが入った、第2便ふるさと便特別セット